

## 第二十四回（株）USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 20 年 7 月 18 日 13：00～

開催場所：（株）USEN ミッドタウンタワー33F

F07 会議室

出席者 委員：有馬祐行、山本武司、湯川れい子、富澤一誠（順不同・敬称略）

放送局側：7 名

## 議事内容

## 1. 会社動向、放送事業についての報告

## 2. 番組課題

「J-POP 年代別チャンネル」から J-POP の時代別特徴と普遍的魅力を読み取り、今後提唱していくべき J-POP 番組について審議する。

## 3. 番組審議

- 日本で作られたポップソングが初めて登場したのが 1960 年代半ば。「J-POP」という言葉が使われ始めたのは 1980 年代後半からと見られる。
- 現代、J-POP の中身は混沌としており、かつてのニュー・ウェイヴのような様相を呈している。
- 年代別のチャンネル編成は、検索性が高く、聴く側としてはわかりやすい。
- しかし、個人で聴くのか業務店で聴くのか等、様々なシチュエーションによって求められる音楽は変わるので、年代別だけではなく、様々な切り口のチャンネルも求められる。
- 昔は歌が世相や時代を反映していたので、選曲によって時代を表現しやすかったが、今はそうではなくなっているところにも難しさがある。
- J-POP の目次になるような番組、例えば 2 時間ごとに年代を変えるとといった番組があるとよいのではないか。
- 年代別チャンネルにおいては、リアルタイムでその年代の音楽を体験していない世代の制作担当者が選曲する場合がある。その際には過去のチャートや、テレビ、ラジオでのオンエア履歴なども参考にしながら、そういった資料から、隠れた名曲の再発見をすることが多い。過去の資料の有効な活用方法も、今後更に考えていくべきだろう。
- リスナーの意見を聴くことと同時に、長年蓄積されてきた選曲ノウハウを活かし、確信をもって発信することによって新しい文化を創って行くことも重要である。
- C/G-61「J-DANCE」や C/G-62「J-LOUNGE」などはリスナーのニーズを読み取り提唱したチャンネルの例。
- 年代別チャンネルでも、当時人気があった楽曲に加えて、「今人気がある（今歌われている）当時の楽曲」という要素も加えてみたらよいのではないか。
- 「歌謡曲 60's Hits」を聴くと 50 年代も聴きたいという気持ちが煽られる。50 年代の歌謡曲番組もあったほうがよいだろう。日本の歌謡史の礎となる大事な時代である。
- J-POP 人気アーティストの中にも、フォーク的サウンドをもったアーティストが定期的に登場するように、フォークミュージックは根強い人気を持っている。フォーク名曲選など、USEN ならではのライブラリを活かした番組も提供していくべき。